

COC/COC+ シンポジウム 「先輩から後輩へ。～山形で学び、働き、地方創生～」

2月11日にCOCおよびCOC+事業のシンポジウムを開催いたしました。

「先輩から後輩へ。～山形で学び、働き、地方創生～」という共通テーマのもとに、東北活性化研究センター会長の海輪誠氏、山形工業会会長の安房毅氏、山形航空電子株式会社の齊藤慈氏、山形信用金庫の富田彩友美氏、そして Agasuke House Project メンバーの7名(大学生2名、高校生5名)から講演をいただきました。その後、参加者一同で、ポスター展示に囲まれながらの交流会を実施しました。

今回の季報では、山形大学OGの齊藤さん、富田さんのインタビュー記事(p1、p4)と、Agasuke House Project メンバーのプレゼン資料(p2-3、一部編集)を掲載します。



シンポジウム交流会の様子

COC+ 大学 OB・OG の活躍 齊藤慈 (平成 23 年山形大学人文学部入学)

Q. 出身は？

生まれは青森ですが、東北地方を転々としてました。高校は仙台市です。

Q. なぜ山形大学に入学したのですか？

高校の頃から文学が好きで、小川洋子さんや村上春樹さんのファンでした。もっと専門的に文学を勉強したいと考え、山形大学人文学部を選びました。

Q. 山形大学ではどんな勉強をしましたか？

大学で勉強するうちに哲学が面白くなって、フランスのサルトルという哲学者について研究しました。どんな科学技術でも、人間の心を明らかにすることはできないと思います。哲学を研究することで、言葉を論理化し、心に迫れるのでは、と考えました。



また、マンドリンサークルに所属してました。組織運営や公演の宣伝など、色んな経験が楽しかったです。

Q. なぜ山形航空電子に就職したのですか？

大学に入る前から、校外学習での工場見学が楽しくって、製造業が好きでした。山形航空電子は高品質のコネクタを作っています。コネクタはあらゆる電子機器に必要とされる部品で、社会の支えになっています。組織運営や宣伝など、言葉を駆使する文系の能力も製造業には必要だと考え、山形航空電子への就職を希望し、採用されました。

Q. 山形の魅力と課題

山形の人には暖かいです。そして、モノ作りへの真摯な気持ちが強い。職人気質と言いますか。ただ、各方面で少々閉鎖的な雰囲気を感じることはあります。初対面の人や新しい物事に対して、もっと積極的に関わろうとする努力があってもいいかもしれません。また山形県全体に言えることですが、人材や考え方の多様性を実現するために、県外出身者などを更に取り込む必要があるかもしれません。

Q. 後輩へのメッセージ

就職対策で焦ってしまって周りを気にしてしまうのも分かるのですが、学生の皆さんには受身にならず好きなことを好きなだけやってほしいです。やりたいことに対して一生懸命に取り組んだことは、将来何かを実行する際の糧になるはずですよ。

やまがた創生便り

～協働・循環型「やまがた創生」人材育成事業～

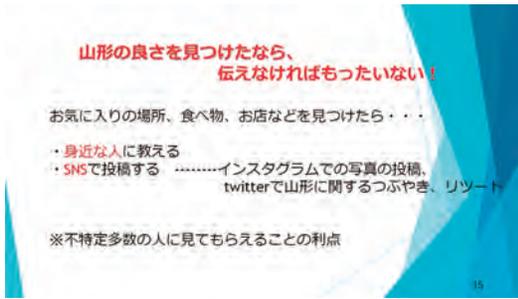
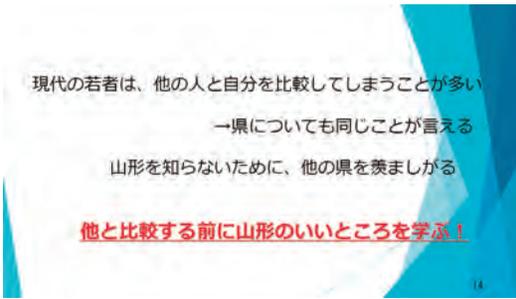
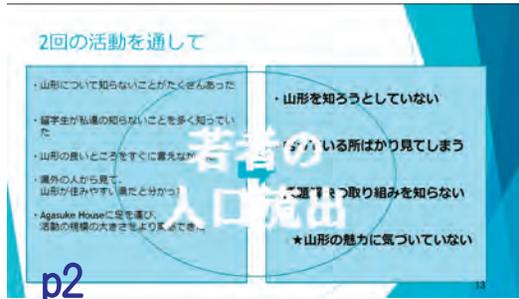
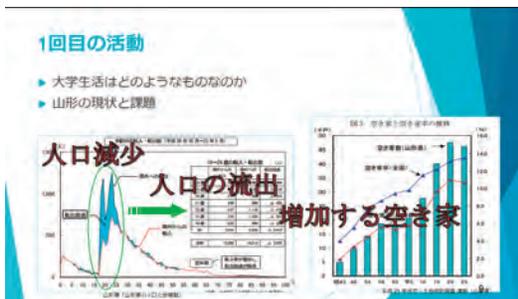
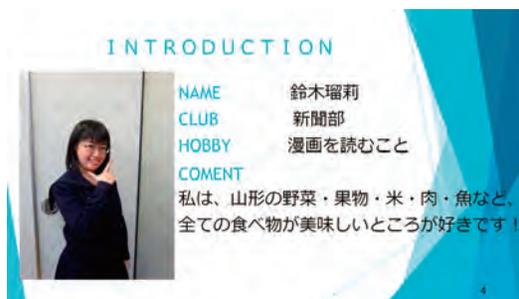
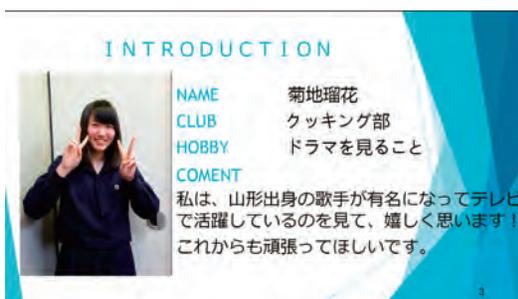
高大連携事業の成果発表

(協働人材育成部会 & 普通科高等学校におけるキャリア教育事業)

今年度におこなった高大連携事業について、5名の県内高校生に報告してもらいました。高校生と大学生が、山形の課題や可能性について、自分たちで考え活動した成果です。そのときに使用したスライドを若干編集して、今回の季报に転載いたします。

スライドだけだと当日の臨場感が伝わらないのが残念ですが、素晴らしい発表でした。

これから、より多くの大学生・高校生みなさんが、来年度以降の高大連携事業に参加していただくことを楽しみにしております。



やまがた創生便り

～協働・循環型「やまがた創生」人材育成事業～

普通に生活しているだけでは山形を知る機会が少ない
→積極的に、山形を知る場を設ける必要がある

例えば・・・

- ・学校での「総合活動」の時間を有効に活用し、山形を知るきっかけを創る。
- ・大学や企業などと連携して、これからの山形を担う世代に、山形の将来を考える場を設ける。

16

自己紹介

山形県立山形北高等学校 2年生
名前 足達優希
部活 放送部

山形の好きなところ
自然を使った活動がたくさんあるところ



17

自己紹介

山形県立山形北高等学校 2年生
名前 海谷有砂
部活 語学部

山形の好きなところ
農業が盛んで、1年を通して
彩のある食事を楽めるところ



18



19



20

関西の観光地の良い点

- ・一律の値段のバスの範囲が広い
- ・案内表示がわかりやすい
- ・観光地周辺の環境整備
- ・方言を生かしている

など

21

アイデア1 ▶環境整備の工夫

- ・値段均一のバスを作る
- ・観光施設周辺に施設のマークを付ける

22

都道府県別 観光ボランティア組織数

都道府県名	組織の件数	組織数	ガイド人数	男性	女性	平均年齢
山形県	○	72	1,398	876	500	64.6
京都府	○	27	949	540	409	58.5
大阪府	○	32	1,189	708	422	65.4
兵庫県	○	71	1,890	1,003	868	62.1
奈良県	○	40	1,689	976	715	62.9

提供：日本観光復興協会

23

その2 ▶観光学生ボランティアの機会を増やす

- ・外国人向けの学生の語学力を生かしたツアーガイド
- ・日本人観光者用の高校生&大学生によるツアーガイド

24

その3 ▶山形の良さをPRしている団体支援

- ・資金の集め方を紹介するサイトを作る
- ・人の呼びかけを手伝う

資金が足りない

人脈がない

25



県民全員参加のまちづくり

多くの人に山形の魅力を発信

26



27



やまがた創生便り

～協働・循環型「やまがた創生」人材育成事業～

COC+ 大学 OB・OG の活躍

富田彩友美（平成 22 年米沢女子短期大学入学
/ 平成 24 年山形大学人文学部編入学）

Q. 出身は？

山形市です。高校の頃は、地元での公務員就職を漠然と考えており、米沢女子短大へ進学しました。

Q. なぜ山形大学に編入学したのですか？

短大の卒業研究で英文法に取り組みました。これが面白く、もっと研究を続けたいと思い、山形大学に編入学しました。英語の受動態が研究テーマです。

Q. なぜ山形信用金庫に就職したのですか？

当初は東京への就職も考えていました。しかし、編入の時など、親や地元の人に助けってもらったことから、地域に貢献する仕事をしようと思い、地域に密着し、お客様と向き合うことのできる山形信用金庫への就職を決意しました。



記事執筆者の募集

季報「やまがた創生便り」は、学生目線で地方創生・人材育成を考え、情報発信するために発行しています。県内大学・高専の学生の皆さん、県内大学・高専への進学を考えている小中高生の皆さんによる記事執筆を広く募集します。また地域の方で、いまの

また、高校の頃から続けている「吹奏楽を続けたい」、ということもあり、土日祝が休みである企業を選択しました。

Q. どんな仕事をしていますか？

総務部に勤務しています。幅広い業務を担う部であるため、様々な知識が必要になります。前例のないトラブル等、上司や同僚と協力して解決できたときには達成感があります。

Q. 大学までの勉強はどう活かされていますか？

人文系の学問全体に共通することですが、問いに対する明快な答えというものは、実はありません。自分で考えて、自分なりの答えを見つける必要があります。そうした、課題を発見して解決する経験が、今の仕事に活かされています。

Q. 山形の魅力と課題

山形には古民家カフェなど魅力的な店が増えています。また、食べ物も美味しいです。ただ、交通網が十分に整備されていないため、東京から来るのも大変だと思います。

Q. 後輩へのメッセージ

仕事で辛いこともありました。そんな時、高校・短大・大学の時の先生や友人に相談して乗り切りました。勉強も大切ですが、ゼミやサークルで出会った先生や友人との関わりを大事にしてください。

若い人たちにぜひ自分たちの地方創生・人材育成に向けた取り組みについて発信したいという地域の皆様の声も掲載したいと考えております。関心のあるかたは、ぜひ以下の連絡先まで気軽にご一報ください。

事業の連絡先

山形大学 COC/COC+ 推進室
東北公益文科大学庄内オフィス
東北芸術工科大学法人企画室
米沢栄養大学総務企画課
東北文教大学運営企画室
鶴岡工業高等専門学校総務課
※☎を@に変換してください

電話 023-695-6263/6264
電話 0234-41-1115
電話 023-627-2089
電話 0238-22-7330
電話 023-688-2298
電話 0235-25-9453

E-mail: cocsuisin☎jm.kj.yamagata-u.ac.jp
E-mail: coc-office☎koeki-u.ac.jp
E-mail: c_o_c☎aga.tuad.ac.jp
E-mail: jimuyone☎yone.ac.jp
E-mail: m_mihara☎t-bunkyo.ac.jp
E-mail: kikaku☎tsuruoka-nct.ac.jp